

科目名	機能訓練 1							年度	2026
英語科目名	Function training 1							学期	前期
学科・学年	柔道整復科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	塚本哲也		教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（介護施設にて勤務経験あり）	
【科目の目的】 リハビリテーションを通じて患者の持つあらゆる障害に対し総合的に対処するための知識と技術を習得することを目的とする。									
【科目の概要】 機能訓練指導員として必要な知識を学びます。									
【到達目標】 機能訓練指導員とは、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者であり、通所介護事業などで利用者への機能訓練を行うことで、能力の維持向上を図ることが活動の主体となる。この科目では、高齢者の身体特性と慢性疾患・既往症・合併症ならびに機能訓練に必要なリハビリテーション知識と装具などの実際について理解することで高齢者福祉に貢献する人材を育成することを目標としている。									
【授業の注意点】 国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な対応ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	リハビリテーションの定義と概念について完全に理解している。	リハビリテーションの定義と概念について大体理解している。	リハビリテーションの定義と概念について部分的に理解している。	リハビリテーションの定義と概念についての理解がやや不足している。	リハビリテーションの定義と概念について理解していない。				
到達目標 B	運動学と機能解剖・障害学について完全に理解している。	運動学と機能解剖・障害学について大体理解している。	運動学と機能解剖・障害学について部分的に理解している。	運動学と機能解剖・障害学についての理解がやや不足している。	運動学と機能解剖・障害学について理解していない。				
到達目標 C	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて完全に理解している。	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて大体理解している。	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて部分的に理解している。	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについての理解がやや不足している。	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて理解していない。				
到達目標 D	中枢性運動障害の評価法について完全に理解している。	中枢性運動障害の評価法について大体理解している。	中枢性運動障害の評価法について部分的に理解している。	中枢性運動障害の評価法についての理解がやや不足している。	中枢性運動障害の評価法について理解していない。				
到達目標 E	理学療法・作業療法・言語療法の実際と補装具について完全に理解している。	理学療法・作業療法・言語療法の実際と補装具について大体理解している。	理学療法・作業療法・言語療法の実際と補装具について部分的に理解している。	理学療法・作業療法・言語療法の実際と補装具についての理解がやや不足している。	理学療法・作業療法・言語療法の実際と補装具について理解していない。				
【教科書】 教科書は「リハビリテーション医学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験・課題等を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		機能訓練 1			年度	2026
英語表記		Function training 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標 = 修得するスキル	評価方法	自己評価
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの定義と概念を理解する。	1 定義	全米リハビリテーション評議会の定義を理解する。	3	
			2 理念	障がい者の復権について理解する。		
			3 福祉の基本概念	ノーマライゼーションについて理解する。		
2	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の4つの分野とICIDH/ICFについて理解する。	1 国際障害分類	国際障害分類 (ICIDH) について理解する。	3	
			2 国際生活機能分類	国際生活機能分類 (ICF) について理解する。		
			3 病気と障害の相違	病気と障害の相違について理解する。		
3	評価学①	身体計測・関節可動域測定法・徒手筋力テストについて理解する。	1 身体計測	四肢長や四肢周径について理解する。	3	
			2 関節運動と可動域	関節可動域の測定について理解する。		
			3 小児運動発達	発達テストや粗大運動の発達について理解する。		
4	評価②	ADL評価、心理・認知症の評価ならびに運動失調について理解する。	1 日常生活動作	ADL・IADLについて理解する。	3	
			2 心理的評価	心理テストや認知症の評価について理解する。		
			3 運動失調	病態や識別、テスト法について理解する。		
5	障害学①	障害学と徒手筋力テスト、中枢神経麻痺について理解する。	1 障害評価	関節拘縮や神経麻痺について理解する。	3	
			2 徒手筋力テスト	MMTの段階ごとの状態について理解する。		
			3 中枢神経麻痺	Brunnstrom法・痙縮について理解する。		
6	障害学②	摂食嚥下障害や高次脳機能障害について理解する。	1 摂食嚥下障害	嚥下障害へのアプローチについて理解する。	3	
			2 失語症	分類や治療アプローチについて理解する。		
			3 失認と失行	病態やテスト法について理解する。		
7	治療学①	廃用症候群、筋力強化について理解する。	1 廃用と拘縮	廃用症候群や関節拘縮について理解する。	3	
			2 関節可動域運動	拘縮に対して行う運動療法について理解する。		
			3 筋力増強運動	筋力ごとの強化手技や注意点について理解する。		
8	振り返り	前期1回～7回の講義の振り返り。 機能訓練実技 (車椅子シーティング)	1 定義と理念	定義、理念、福祉の基本概念について理解する。	3	
			2 障害の階層	国際障害分類・国際生活機能分類について理解する。		
			3 徒手筋力テスト	徒手筋力テスト (MMT) について理解する。		
9	治療学②	全身運動ならびにリスク管理、リハビリ関連職種について理解する。	1 全身運動	歩行練習や内部障害へのアプローチを理解する。	3	
			2 リスク管理	事故・インシデントや感染予防について理解する。		
			3 リハビリ関連職種	実施計画書や各職種の業務内容を理解する。		
10	理学療法	運動療法・物理療法、マッサージについて理解する。	1 運動療法	関節可動域運動、筋力増強運動を理解する。	3	
			2 物理療法	目的・種類・禁忌について理解する。		
			3 マッサージ	作用や効果、禁忌について理解する。		
11	作業療法、言語聴覚療法	作業療法の実際と言語聴覚療法について理解する。	1 作業療法	ADL訓練について理解する。	3	
			2 言語聴覚療法	失語症の特徴やアプローチを理解する。		
			3	失語症を疑似体験する。		
12	補装具①	装具と義肢について理解する。	1 装具(上肢・下肢)	各装具の種類・適応を理解する。	3	
			2 装具(頸部・体幹)	各装具の種類・適応を理解する。		
			3 義肢	義手・義足について理解する。		
13	補装具②	歩行補助具・車椅子、自助具について理解する。	1 歩行補助具	種類・特徴・使用方法について理解する。	3	
			2 車椅子	各部の名称や種類、適合方法を理解する。		
			3 自助具	種類・使用方法を理解する。		
14	振り返り	前期9回～13回の講義の振り返り。	1 理学療法とは	筋力増強運動、温熱・寒冷療法、超音波療法などについて理解する。	3	
			2 作業療法とは	作業療法における定義・環境・時期などについて理解する。		
			3 言語聴覚療法とは	対象とする障害・症状と実際について理解する。		
15	国家試験対策	前期講義のポイントをおさらいする。	1 ICIDH/ICF	国家試験出題傾向を見極めて理解する。	3	
			2 障害学、治療学	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		
			3 リハビリ治療技術	国家試験出題傾向を見極めて理解する。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等